

眼形成・眼窩・涙道外科を受診している患者さん及びそのご家族へ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	スポーツに関連する眼窩骨折におけるスポーツ別による臨床所見の違いに関する研究
研究機関の長(試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	眼形成・眼窩・涙道外科 (職名) 教授(特任)(氏名) 高橋靖弘
研究の対象となる方	2013年5月1日から2023年12月31日までに当科を受診したスポーツに伴う眼窩骨折の患者さん
研究期間	研究実施承認日 ~ 2024年12月31日
研究目的及び利用方法	<p>[研究目的]</p> <p>スポーツは眼窩骨折発生の主な原因の1つです。眼窩骨折は目が収まる骨のくぼみ(眼窩)の骨が折れる疾患で、衝撃が眼球にかかる際に骨折することでその衝撃を骨折部から逃がすための一種の防御反応です。眼窩骨折はこぶし大の物が眼にぶつかり発生します。スポーツにおいては競技用具(ボールなど)や接触の多いスポーツ競技中の拳、肘、膝による打撲が多いです。その衝撃が大きければ大きいほど骨折の範囲が広く、逃がしきれなかった衝撃が眼球を傷害してしまいます。目にかかる衝撃の大きさはスポーツによって差があると推測されます(例:野球の硬球>肘による打撲)。しかし、これまでに、スポーツ別に眼窩骨折の臨床所見の違いを調べた報告はなく、本研究ではこれを調べることを目的としています。</p> <p>[利用方法]</p> <p>診療情報の収集目的で、カルテを利用します。またCT画像から、骨折のパターンや眼窩壁骨折部位を調べます。患者さんを原因スポーツ別にグループ分けし、グループ間で臨床所見や画像所見の差を統計学的に分析します。</p> <p>[外部への試料・情報の提供]</p> <p>非該当</p> <p>[外部への提供開始日]</p> <p>非該当</p>
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	試料: 非該当 情報: 診療録(カルテ)およびCT画像から、年齢、性別、左右、受傷原因スポーツ、他の眼部傷害の有無、術前両眼単一視野、手術を受けたか否か、骨折パターン、眼窩壁骨折部位、鼻骨骨折の有無に関する情報を収集

提供する試料・情報を用いる学外の研究責任者	非該当
試料・情報を利用する学外の者	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2024年8月31日までに電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科 担当者：(職名) 教授 (特任) (氏名) 高橋靖弘 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 12314)